

《ワクワクプロジェクト》 H30.8.21 《兵庫支部》

「その子の今に共感できる教師に」

講師：中井 清津子 先生（相愛大学 人間発達科学部 教授）

演題：「保育の質向上と教師の役割」

高校野球の決勝戦が熱く盛り上がる中、全幼研兵庫支部研修会が神戸市において開催されました。熱心に参集した300名を超える会員と共に、「保育が好き！」と笑顔で語られる中井先生のお話聞き入りました。

「ハイスコープ・ペリー就学前教育研究」のお話では、幼児教育への先行投資の効果と「非認知能力の育成」の重要性を再認識しました。それと共に、我が国が直面する「少子高齢化の進行」「生産年齢人口の減少」などの現状と、問われる「保育の質」について深く考えさせられました。また、今回の「学習指導要領改訂」の理念の一つは、「市民性・国民性」「よりよい社会をつくるという意識を育てること」とお聞きし、これからの混沌とした社会をよりよく導き、輝いて「生きる」子どもを育てることが私たちの使命だと痛感しました。

このことに関連し、ある小学校のコミュニティスクールの取り組みをお聞きました。地域の人と「教育理念」を共有し、教育課程を地域に開き、地域の人と教師と一緒に授業づくりをする。早くから「英語」にも取り組み、地域の人が「英語」の授業に参加する。学んだことが実践できるよう、小グループで地域の人と一緒に「時代まつり」に出掛け、学んできた「英語」を観光客の案内に活かす。社会の中で学びが活かされてこそ、「学ぶ喜び」につながるのだと感じました。「地域に開かれた教育課程」で、地域と共に子どもを育てる。子どもたちの「真の学び」について問い直し、これからの教育の在り方について再考する必要性を感じました。

また、「保育は物語。楽しい！面白い！」と教師の役割をお話くださいました。「子どもの学びのストーリー」を確かに捉え評価する。できないことを否定しないで、「やろうとしていること、集中していること、没頭していること」から、一人一人の有能性を見出す教師。「できない」と言えたことを評価する教師。子どもと同じ地平で共感できる教師。そんな教師の感性が、子どもの心を豊かにし、より深い学びに導いていくのだと教えていただきました。発達を見通す確かな眼と子どもを受け止める豊かな感性を磨き、日々の保育を丁寧に見つめること。子どもに学ぶ謙虚さと、情熱を失わないこと。そんな教師の姿勢が大切であることを中井先生から学びました。

中井先生、ありがとうございました。



中井先生を囲んで・・・